

平成 27年 06月 04日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称

九州森の住まい

グループの名称

九州森の住まいプロジェクト

直近採択グループ番号

※過去に地域型ブランド化事業で
採択を受けたグループは記入

(グループ代表者)

代表者名

田村 寛治

代表者印

代表者所属先

アイ・ホーム 株式会社

代表者構成員番号

V-1, VI-1

代表者所在地

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂3569番地7

代表者電話番号

0985-73-7770

(グループ事務局)

事務局事業者名

アイ・ホーム 株式会社

事務局構成員番号

V-1, VI-1

事務局担当者名

宜野座 俊彦

印

事務局郵便番号

880-0212

事務局所在地

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂3569番地7

事務局電話番号

0985-73-7770

事務局FAX

0985-73-7738

事務局担当者E-mail

ginoza@aihome-net.com

1. 地域型住宅の名称(必須)	九州森の住まい
2. グループの名称(必須)	九州森の住まいプロジェクト
3. 直近採択グループ番号(必須)	—
4. 地域型住宅供給対象地域(必須)	九州全域
5. 結成年(必須)	2015 年
6. グループ代表者名(必須)	田村 寛治
7. グループ代表者の所属先(必須)	アイ・ホーム 株式会社
8. グループ代表者の構成員番号(必須)	V-1, VI-1
9. グループ代表者所在地(必須)	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂3569番地7
10. グループ代表者電話番号(必須)	0985-73-7770
11. グループ事務局事業者名(必須)	アイ・ホーム 株式会社
12. グループ事務局の構成員番号(必須)	V-1, VI-1
13. グループ事務局担当者名(必須)	宜野座 俊彦
14. グループ事務局郵便番号(必須)	880-0212
15. グループ事務局所在地(必須)	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂3569番地7
16. グループ事務局電話番号(必須)	0985-73-7770
17. グループ事務局FAX番号(必須)	0985-73-7738
18. グループ事務局担当者E-mail(必須)	ginoza@aihome-net.com

(構成員数)		(構成員を含まない理由)
I. 原木供給	8	
II. 製材・集成材製造・合板製造	13	
III. 建材流通(木材を扱わない事業者を除く)	5	
IV. プレカット	5	
V. 設計	5	
VI. 施工	8	
VII. 省エネルギー設備等の流通	4	
VIII. 木材を扱わない流通	0	
IX. I～VIII以外の業種	1	

A. 使用する地域材に関する事項 (必須)	対象となる地域材の名称	地域材の産地	認証制度等の名称		国内・国外
			番号記入欄		
	九州産地材	宮崎・鹿児島・熊本・大分・長崎・福岡・佐賀	合法木材認証制度	3	国内
	九州産地材	宮崎・鹿児島・熊本・大分・長崎・福岡・佐賀	SGEC認証制度、FSC認証制度	2	国内

B. 平成27年度における補助対象の木造住宅の申請戸数及び地域材加算申請戸数(必須)	長寿命型(長期優良住宅) 経験工務店+未経験工務店の合計 54 戸		地域材加算合計 54 戸	
	うち経験工務店による長期優良住宅 合計 46 戸	うち未経験工務店による長期優良住宅 合計 8 戸		
	うち申請が確実 21 戸	うち申請が確実 0 戸	地域材加算(うち申請が確実) 21 戸	
	うち申請が未確定 25 戸	うち申請が未確定 8 戸	地域材加算(うち申請が未確定) 33 戸	
	高度省エネ型(認定低炭素住宅) 合計 5 戸	地域材加算合計 5 戸		
	うち申請が確実 0 戸	地域材加算(うち申請が確実) 0 戸		
	うち申請が未確定 5 戸	地域材加算(うち申請が未確定) 5 戸		
	高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅) 合計 14 戸	地域材加算合計 14 戸		
	うち申請が確実 6 戸	地域材加算(うち申請が確実) 6 戸		
	うち申請が未確定 8 戸	地域材加算(うち申請が未確定) 8 戸		
C. 平成27年度における補助対象の優良建築物の申請棟数及び床面積(優良建築物を供給するグループのみ必須)	優良建築物			
	うち申請が確実 棟	m ²		
	うち申請が未確定 棟	m ²		

D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール(必須)	下記の順序で優先的に配分を基本とし、かつ、各社の公平性に配慮し配分する。 1. 長期優良住宅の未経験工務店での申請確定物件 2. 長期優良住宅の経験工務店での申請確定物件 3. 長期優良住宅の未経験工務店での申請予定物件 4. 長期優良住宅の経験工務店での申請予定物件 5. 中規模工務店の物件			
---	--	--	--	--

E. 平成26年度の執行状況(H26年度地域型ブランド化事業採択グループのみ必須)	長期優良住宅		完了実績見込み	
	採択戸数 戸	交付申請戸数 戸	竣工済 戸	竣工予定 戸
	木造建築物			
	採択棟数 棟	採択床面積 m ²		

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 九州森の住まい	(地域型住宅供給対象地域) 九州全域
2. グループの名称・結成年(必須)	(グループの名称) 九州森の住まいプロジェクト	(結成年) 2015年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	---	
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は○印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。		
ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定		
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
①地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能	●結露、コールドドラフト防止及び冷暖房費削減等の省エネルギー性向上を実現するため、開口部には、遮音性・断熱性に優れた高性能サッシ(ペアガラス以上)を用いる。 ●日射の影響を強く受ける南・東・西面には遮熱Low-Eガラス、北面には高断熱Low-Eガラスを採用する。 ●断熱性能は、UA値0.8以下を確保するとともに、一次エネルギー消費量は、認定低炭素基準(一次エネルギー消費量が省エネルギー基準よりも10%程度削減)をクリアする。	◎
②地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式	周辺の環境を考慮し、南・東面の掃き出し窓は台風対策としてシャッター雨戸を推奨する。	○
③地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール	通気、換気を考慮した設計手法による省エネ効果の向上を目指す。	○
④①～③の背景	九州は日本国内でも日射が強い地域であると共に、台風の影響多い地域である。 九州は桜島・新燃岳からの火山灰や黄砂・PM2.5の影響により、窓を開ける換気がしにくい地域である。	○
⑤その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	省エネルギー設備の導入。 空調設備：高効率エアコン(エネルギー消費効率が建築研究所のホームページで公開されている冷房効率区分(い)を満たす機種) 給湯設備：エコキュートを使用する場合はJIS効率3.0以上のものを使用する。もしくは同等以上の性能の機器とする。 換気設備：DCモーターを採用した機種 照明設備：白熱灯を使用しない	◎
イ. 効率的な住宅生産体制の整備		
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a. ①用材の寸法規格化や建材の統一、標準仕様の設定	●通し柱、管柱は4寸以上とする。 ●主要構造材の70%以上に地域材を使用する(宮崎県産杉材を中心に九州産の木材に努める)	◎
②建材・資材調達のコスト削減や事務の合理化	建材・資材の共同購入に努めるため、グループ共通の「共同購入リスト表、並びに共同注文書」を作成すると共に、共同購入単価表の設定に努める。	○
③生産の合理化等に向けた委員会等の検討実施体制	長期優良住宅の経験が少ない、または、取り組んだことのない施工店に対する、サポート方法の検討を技術向上委員会で行い、その実施に努める。	○
④生産の合理化等に向けた事務局の役割	事務局は、技術向上委員会での検討及びその成果が、確実に実施される様、参加企業の取りまとめに努める。又、これらが確実に実施される様、一般社団法人YUCACOシステム研究会・株式会社FHアライアンス等の協力を得られる様に努める。	○
b. ①グループの信頼性向上に向けた施工基準の整備	●設計性能評価を行う。 ●一般社団法人ハウスマンウォラントの地盤保証(20年)等の地盤保証システムに加入する。	◎
②グループの信頼性向上に向けた検査ルールを設定	●建設性能評価の実施に努める。 ●共通の検査ルールを設定をし、実施する様推進する。	○
③グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール化	●共通の見積書式を作成し、その活用を推進する事により、グループの信頼性向上に努める。	○
④グループの信頼性向上に向けたその他の具体的取組	●本プロジェクトを建築する現場において、のぼりを立てる等により事業のPRを行う。 ●一般社団法人YUCACOシステム研究会・株式会社FHアライアンスより講師を招き、技術指導を受ける。 ●建築予定者向けの構造見学会・完成見学会・各種セミナー等を実施することにより、信頼性の向上を図る。	◎
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	●構造部材(木材)は防腐防蟻剤及び収縮抑制剤を加圧注入することにより、乾燥に用いるエネルギーを低減しつつ長期耐久性及びKD材同等の寸法安定性を担保した材(またはそれ相当の材)を使用する。 ●1階の床組材(土台、大引)、軸組材(柱、間柱、筋交)、外胴縁への防腐防蟻剤及び収縮抑制剤の加圧注入処理材を使用する。 上記について、保証制度を付与する。 ●防腐防蟻剤及び収縮抑制剤の加圧注入処理材についての講習会を実施する。	○

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域 (必須)	(地域型住宅の名称) 九州森の住まい	(地域型住宅供給対象地域) 九州全域
2. グループの名称・結成年月 (必須)	(グループの名称) 九州森の住まいプロジェクト	(結成年) 2015 年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号 (必須)	--	
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は○印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。		
ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備		
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①住宅履歴情報の共通管理 診断・点検方法の共通化 ●第三者の情報サービス機関に住宅履歴情報を蓄積し、一括した設備図面等の管理を行う。 ●共通の定期点検計画(3ヶ月、6ヶ月、1年、2年を基本)や長期修繕計画の構築に努める。 ②メンテナンス・リフォーム 基準の整備 共通の定期点検チェックシート、劣化等の判断基準等の構築に努める。 ③住まいの管理・DIY相談会 体験会などの実施 ●定期点検時等に判明した諸問題の改善案を、速やかに建築主に提示して維持保全に努める。 ●住まい手に対し維持保全に関するセミナーを開催し、その中で住まい手による維持保全の重要性を認知してもらう。 ④グループ内における維持 管理検討委員会等の設置 ●維持管理委員会を設置し、施工会社毎の維持管理システム・メンテナンス基準等を統合し、共通のルールを策定に努める。	○
b	①グループ構成員の倒産廃 業時のバックアップ体制 住宅保証機構株式会社の完成保証を利用する。 ②グループ独自の瑕疵担保 ルールの整備 国土交通大臣指定の住宅瑕疵担保責任保険法人の瑕疵担保保証を受けること。 (保証期間延長瑕疵保証責任保険10年延長プラン(10年+10年)の瑕疵担保保証とする。)	◎
その他	※上記項目以外でグループ独自 のルール・目標があれば記入 してください。 地域活性化のための地域材認証制度を利用する。 「緑の循環」認証会議(SGEC)、森林管理協議会(FSC)、合法木材証明制度等の証明書を木材業者が発行する。	◎
エ. グループの技術力の向上		
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①未経験工務店等への施工 技術研修会等の開催 グループ施工業者が集まるでの勉強会の実施。 ②①の研修会等の実施内容 とその開催頻度 品質確保、品質向上に欠かせない人材教育システムと育成の補助を行う。 施工実績のある施工業者から各工務店へノウハウの伝授を行う。 年4回の実施を目標とする。 ③総合的な需給計画の策定 等の中長期的な取組 ④③に基づく業種ごとの合 理化への取組	○
b	①省エネ技術講習会への参 加目標人数 参加施工業者毎に、設計者2人以上、施工技術者2人以上省エネ講習会への参加を目標とする。 ②省エネ技術講習会への参 加促進のための取組 ホームページ等で情報収集に努め、九州地区の省エネ技術講習会の情報を取りまとめる。各工務店および構成員に登録した業者や関連 業者へ講習会への参加を促す。	○
c	①新たな技術等の導入や開 発の検証のための方法 ②新たな技術等の導入や開 発に向けた実証実験の実 施等	
その他	※上記項目以外でグループ独自 のルール・目標があれば記入 してください。 瑕疵を起こさない建物を造る事に関して、技能と知識の向上を目的とし、施工上の品質を安定的に高い技術で提供するために大工職、防 水職、板金工等に対し、技術交流会を行なう。	○

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域 (必須)	(地域型住宅の名称) 九州森の住まい	(地域型住宅供給対象地域) 九州全域
2. グループの名称・結成年月 (必須)	(グループの名称) 九州森の住まいプロジェクト	(結成年) 2015年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号 (必須)	---	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

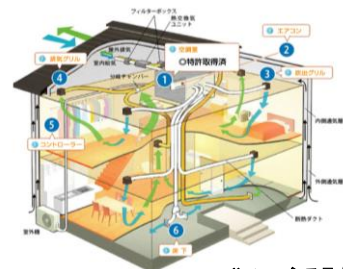
オ. 地域の産業・住文化・景観等への寄与		◎、○ 記入欄
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①地域材ごとの使用部位 (必須) ②地域材ごとの1棟当たりの使用量とその占める割合 (必須) 地域材利用に関する共通ルール (必須) 地域材の流れ(フロー図)などグループの取組に関する補足説明	◎ ◎ ◎ /
b	①地域材の在庫量や価格情報を把握・共有のための仕組み ②グループ全体における地域材の需給予測	○ ○
c	①-1 畳の活用 ①-2 和瓦の活用 ①-3 襖の活用 ①-4 障子の活用 ②その他地域の伝統的な素材や意匠の活用	○ ○ ○ ○ ○
d	①地域の伝統的なデザインを継承する取組 ②地域の住まい方の継承につながる取組 ③地域の街並み形成へ寄与する取組 ④和の住まいの要素を取り入れた取組	○ ○ ○ ○
その他	※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	○

その他		◎、○ 記入欄
【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
東日本大震災の復興に資する取組		

グループが取組む木造住宅・建築物の特徴
※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。
※申請に係る認定低炭素住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物型の性能や特徴等について記入してください。

ゼロ・エネルギー住宅の仕様
・マツハシステムの導入
マツハシステムとは、壁掛けルームエアコン1台で冷暖房ができ、同時に換気、空気浄化、加湿、除湿を行うことができる省エネで快適な室内環境を可能にした次世代全館空調システムのことである。これは、建物全体で構造部である天井裏と全室内を含めた換気をダクトを用いて強制換気を行うことで実現できるものである。
・高气密高断熱住宅とする。(外皮平均熱貫流率(UA値)を0.7以下とする。)
・屋根断熱とする。
・基礎断熱または床断熱とする。
・太陽光発電システム4.0kW以上の設置をする。
・温度計測システムを導入する。屋外から室内の温度状況が分かるアプリを導入する。

認定低炭素住宅の仕様
・高气密高断熱住宅とする。(外皮平均熱貫流率(UA値)を0.7以下とする。)
・屋根断熱とする。



◀マツハシステム 概要▶



◀温度計測システム アプリ画面 (仮)▶

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。